『福岡県史』史料紹介 20

香椎宮追遠会について

―中尾文書、永江文書などを中心に―

石川泰成

香椎宮を訪れると、大きな楼門が私たちを迎えてくれます。また綾杉の左手に向かい石段をあがると、朱塗りの柱・垂木に白壁の南天門と回廊があり、その先に拝殿、幣殿、そして国の重要文化財で香椎造りの本殿があります。筆者ははじめこの楼門、南天門も古い歴史をもつ建造物かと思っていました。最近、明治時代に、追遠会（ついえんかい）という団体が建設に力を尽くしたことを知り、今回、九州歴史資料館所蔵の中尾文書、永江文書、羽野文書、山北村庄屋文書などから追遠会の活動の沿革をなぞってみたいと思います。

追遠会の結成と上京運動

私が奉職する九州産業大学図書館に、森禎二郎『官幣大社香椎宮追遠会上京日誌』一冊と彼の手になる『備忘録』一冊、森禎二郎序・矢田一嘯画・木下美重解説『香椎宮幻灯原図并図解』と題した画冊を架蔵しています。いずれも森禎二郎はじめ追遠会の活動を知ることができる史料です。森禎二郎氏は、『香椎町誌』によれば、明治十三年（一八八〇）一月六日～明治四十五年（一九一二）まで香椎郵便局長を務め、前職に庄屋と記されています（町誌は程次郎に誤る）。

『上京日誌』によれば、香椎村村長 田代百太郎らが森氏を含む香椎近辺の有志らとともに、礎石だけ残る楼門跡に新たに楼門を建てて往古の姿に戻したい、あわせて香椎宮の境内施設を整えたいと追遠会を組織しました。しかし楼門などの建設が一村の奉賛会の手に負えるものでなく、追遠会の会長を中央政界のしかるべき人物に委嘱し、募金事業を全国的規模にしようと計画しました。そこで田代村長は、追遠会幹事の森禎二郎、香椎宮司中島博光とともに明治三十一年（一八九八）十一月二十九日に上京し、福岡県選出の代議士、藤金作・多田作兵衛、かつて福岡県令を務めた渡辺清貴族院議員を訪ねますが会長推戴の件は不調に終わりました。

そこで追遠会は運動方針を国庫補助金の請願に転換し、第二回目の上京を行い、貴族院、衆議院へ請願書を提出し、衆議院は明治三十二年（一八九九）一月三十一日採択、貴族院は二月四日に採択されました。

広報・寄附活動

福岡の追遠会本部は、両議院採択の報に接するや、直ちに追遠会の会員拡大のため動きます。明治三十二年二月十九日追遠会の仮会長、中島博光の名義で発行された委嘱状（中尾文書二〇七八―九）に「官幣大社香椎宮追遠会／会員勧誘ヲ嘱託ス」とあり、追遠会の地元会員募集を起動させたことがうかがえます。

明治三十二年六月には内務省から毎年八千円の補助金を五年間支出する通知が出されました。追遠会は請願当初は三万円余りの計画でしたが、請願採択後、大蔵省への申請時に、この際にとばかりに三十万円に増額した建設内容で申請します。そのため補助金四万円決定後は、資金の不足分を追遠会自らが募金活動で集めることにしました。

明治三十四年（一九〇一）九月十七日に起工式、地鎮祭が行われ、明治三十九年（一九〇六）四月十六日には落成式が挙行されましたが、その間の追遠会の活動をみてみましょう。

（1）祭典出席への優待

明治三十三年（一九〇〇）四月十日付、香椎宮宮司斎藤普春名義の古式祭典執行の案内状と優待券（永江文書A二九六―一）があり、この案内状には「追遠会の事業につきては容易ならざる御配慮を煩し候段千萬辱奉深謝候…」と記していることから、四月十七日挙行の古式祭典（神幸式）に追遠会事業に寄与した人物を招待したのでしょう。案内状の宛名は永江純一で、三池銀行頭取を務め、のちに衆議院議員となった実業家、政治家です。

（2）香椎唱歌の作成

明治三十五年（一九〇二）三月三十一日には追遠会が発行所（発行人は香椎村中尾九助）となって『香椎宮唱歌』（中尾文書七三二）を刊行しています。作詩は唱歌選定委員でもある高名な歌人の中村秋香、作曲は明治・大正期に活躍した高折周一です。中村秋香の序文には「…古昔初めて外交の道を開き、経国の基を盛ならしめられし神功皇后の御徳を益々深く尊崇せざるべからず、是即ち香椎宮追遠会の設ある所以なり、…及び香椎宮は皇后を奉祀するところにして、その現状の如何なるとは、未だ之を知らざる者多きを以て、今此香椎宮唱歌を作り、先づこれを広く諸学校生徒に歌わしめ、…」と追遠会の設置の意義を説き、香椎宮の宣揚を唱歌制作の理由としています。

（3）幻灯会開催

明治三十五年『香椎宮幻灯原図幷図解』は、この募金活動の一環として森禎二郎が幻灯会を企画した際に作成されたものです。原図は福岡洋画家の祖とされパノラマ画を得意とする矢田一嘯（一八五八―一九一三）に依頼しました。今日、矢田の現存作品数が少ないなか明治三十五年の画家活動を知ることができる作品です。なお幻灯機と幻灯ガラス種板は、現在、福岡市博物館（高嶋俊光資料）に所蔵されています。森禎二郎の本画冊序文によれば、幻灯会は明治三十六年三月五日に香椎宮で開催されたようです。

矢田一嘯画「仲哀天皇の御棺を椎の木に懸けたる所の図」／九州産業大学図書館蔵『香椎宮幻灯原図幷図解』より

（4）寄附金募集活動

明治三十五年八月三十日には福岡県知事・深野一三（在職一八九九・四～一九〇二・一〇）が追遠会会長として地方委員を委嘱している文書があります。内務省の補助金通達には、国庫補助金の支払いや工事の監督には知事が当たると定めていて、以降は、福岡県知事が会長に就任したようです。後述の「追遠会記念碑」の会長の名には、深野のあと、川嶋醇（在職一九〇二・一〇～一九〇六・一二）、寺原長輝（在職一九〇六・一二～一九一二・四）と歴代の福岡県知事の名が刻まれています。

明治三十六年（一九〇三）六月の日付を持つ「官幣大社香椎宮追遠会一件書類」（羽野文書一五七）には、幕、旗、敷物の紙製雛（ひな）形（がた）が残されています。想像をたくましくすれば、楼門などの地鎮祭、起工式などの儀式用祭具を羽野氏が寄進した際の雛形だろうかと考えています。

明治三十七年（一九〇四）二月二十日「山北村庄屋文書」（一〇三四―一八）には、追遠会への寄附金五円の領収証が残されていて、山北村が現在の福岡県浮羽郡浮羽町山北に位置しますので、寄付の範囲が福岡県全域

に広がっていたことがうかがえます。

(5) 報告祭およびそれ以降の追遠会活動記録

明治三十九年（一九〇六）四月十六日落成式が挙行され、明治四十年（一九〇七）に報告祭の祭典が行われました。

明治四十年（一九〇七）十月二十五日の日付で追遠会地方幹事中尾卯之吉宛ての金四十円の領収証（中尾文書二〇七八）があり、但し書きに「但シ官幣大社香椎宮竣功報告御祭典費及勅使道修繕費」としていることから、追遠会による楼門などの工事が終わり報告祭を斎行したことが分かります。中尾氏は氏子総代とはいえ、四十円（氏子一戸の負担が五十銭）の金額を支払い、追遠会地方幹事が当時の有力者たちだったことが分かります。

明治四十年十月三十日付、香椎宮宮司木下美重の名義で発給された感謝状（中尾文書二〇七八―八）には、楼門などの修復工事の完成を記念し、功績があった会員に感謝状と木盃を贈る旨が記されています。この竣工記念に授与された木盃は、朱塗りのものもあったようで福岡市博物館（社家町渡辺家資料）に現物が保存されています。

大正二年（一九一三）八月二十九日建立の「香椎宮追遠会紀念碑」によれば、明治四十三年（一九一〇）に事業を完了し、追遠会への寄附は、国庫補助金四万円、氏子幹事寄附金が二万円など合計十二万二千余円になったことが刻まれています。

余響

追遠会の活動は大きな反響をよび、続いて明治四十四年（一九一一）ごろ、博多商業会議所が主唱し、高句麗古碑建設会が組織され、香椎宮に好太王碑の模刻を台座にした神功皇后銅像建立を目指しました。永江文書（Q二二一七、AE三五―一～五）には趣意書や設計図などが残されています。これについてはいずれ後日の談といたしましょう。

いしかわ　やすなり・九州産業大学
地域共創学部　教授

※『福岡県史』（六六冊）編さんのために収集された史料（一〇万点以上）は、現在、九州歴史資料館（小郡市）に収蔵されています。史料に関するお問い合わせ・閲覧申込はこちら ☎〇九四二（七五）九五七五
https://kyureki.jp/kenshi

高句麗古碑建設会の「官幣大社香椎宮高句麗古碑建設予形図」／永江文書 AE35-4